



シェイクスピア V

三 神 勲
工 藤 昭
北 川 悌
大 山 俊
中 野 里 皓
西 脇 順 三 郎 記

世界古典文学全集

45

筑 摩 書 房

シェイクスピアV

世界古典文学全集 第45巻

昭和41年2月28日第1刷発行

昭和59年12月20日第3刷発行

訳者代表 西 脇 順 三 郎

発 行 者 布 川 角 左 衛 門

発 行 所 株式 筑 摩 書 房
会社

東京都千代田区神田小川町2-8
郵便番号101-91 振替東京6-4123
電話 東京 291-7651 (営業)
291-6711 (編集)

0397-20345-4604

三晃印刷/矢島製本

乱丁・落丁本の場合は、御面倒ですが、小社読者係宛に
御送付下さい。送付小社負担にてお取替えいたします。

目次

トロイラスとクレシダ
終りよければすべてよし

三神 勲訳 5

ジョン王

北川 悌二訳 131

ヘンリー五世

大山 俊一訳 191

ヘンリー八世

中野 里皓史訳 255

ソネット詩集

西脇 順三郎訳 321

詩

西脇 順三郎訳

愛人の嘆

369

悲しむ巡礼者

376

雜曲ソネット歌
不死鳥と山鳩
解説

三

神

勲

385

383

380

シ
エ
イ
ク
ス
ピ
ア
V

トロイラスとクレシダ

登場人物

ブライアム トロイの王。

ヘクター

トロイラス

パリス

ディーフォース

ヘリナス

マーガレロン ブライアムの庶子。

イーニアス

アンティナー

カルカス トロイの神官、ギリシア方に加わる。

パンダラス クレシダの叔父。

アガメムノン ギリシア軍の総大将。

メネレーアス その弟。

アキリーズ

エイジャククス

ユーリシーズ

ネスター

ダイアミーデイズ

(またはダイアメッド)

パトロクラス

サーサイテイズ 不具で、口ぎたないギリシア人。

ギリシア軍の將軍。

アレグザンダー クレシダの僕。

トロイラスの僕。

パリスの僕。

ダイアミーデイズの僕。

口上役。

ヘレン メネレーアスの妻。

アンドロマキ ヘクターの妻。

カサンドラ ブライアムの娘、女子言者。

クレシダ カルカスの娘。

トロイの兵士たち、ギリシアの兵士たち、従者たち。

場所

トロイ⁽¹⁾とその附近のギリシアの陣營。

(1) 小アジア、現在のトルコの西北部、ダーダネルス海峡に近い地点。

前口上

口上役、いかめしい甲冑姿で登場。

これより演じます芝居の舞台はトロイの都。

驕るギリシアの王侯はたけり狂って、われがちに

おそろしい兵器、兵員を船いっぱいに積み込みまして、

ギリシアの島々よりアテネの港にぞくぞく集まってきました。

これを率いるはいずれも王冠をいただく大將、六十九名。

トロイ征服の誓いもかたく、アテネ灣をあとに

フリジア^①さして乗り出す。目ざすトロイの都には、

若殿パリスがメネレーアスの手より奪いとった

美しいヘレンと、城壁をめぐらす王宮の奥ふかく

甘い快楽にふけております。これぞ戦争の発端でございます。

さてギリシアの艦隊は海上つつがなくテネドス^②に入港、

兵員、兵器をぞくぞくと陸揚げ、

やがて意気あがるギリシアの精兵は

ダーダンの平原^③にみごとな陣幕を張りめぐらす。

ギリシア軍に対してブライアム王の都を守る六つの城門、

すなわちダーダン、ティンブリア、ヒーリアス、キータス、

トロイエンにアンティノリディーズの各城門は

巨大なひじつぽとそれに劣らぬ頑丈なかんぬきで、

かたく門をかためて、城内のトロイの子らを守っております。

浮気な希望の女神は、昨日は味方、今日は敵方と、

かわるがわるに笑いかければ、トロイ方もギリシア方も一喜一憂、

この戦争の結末はさてどうなりますか、まだ見当がつきませぬ。

ここに口上役として、てまえいかめしい甲冑姿でまかり出でましたる

けっして作者の筆や役者の芸をおそれてのためではございません。

こうしてこの芝居の筋にふさわしい姿をかりて、

皆様ご見物様方に、この舞台は

戦争のそもその発端とはしまして、

いきなり真中から始め、芝居にしくめまする

場面だけをお目にかけることを申しあげるため。

これがお気に召すか召さぬか、もとより皆様方の御自由。

当るも外れるも、それはそれ鉄砲玉同様、運というやつでございます。

〔退場〕

第一幕

第一場 トロイ。プライアムの宮殿前。

パンダラスと武裝姿のトロイラス登場。

トロイラス 小姓を呼んでくれ。鎧をぬぐのだ。
なぜわざわざトロイの城を出て戦うのか？

自分の心が苦しい戦争のまっ最中だ。
自分の心が自由になるやつは、勝手に

出陣するがいい。悲しいかな、このトロイラスは魂の抜けがらだ。

パンダラス 弱りましたな、いつまでもそんなことを。

トロイラス ギリシア人は力が強い、強いうえにいくさ上手だ、
上手のうえにたけりたっている、そのうえに勇敢ときている。

ところがこのおれときたら、女の涙より弱虫で、

眠りよりもおだやかで、無知よりも愚か、

闇夜の小娘よりもおどおどして、

がんでない赤ん坊よりもたよりない。

パンダラス 申しあげることば、もうすっかり申しあげましたんで、
まえばこれ以上余計なおせっかいはごめんこうむります。パンが食べ
たかったら、せめて粉をひくぐらい待ってやらなきゃなりませんや。

トロイラス 待ったじゃないか。

パンダラス さよう、粉をひくくまではな。だが粉をふるわにやらんて。

トロイラス それだって待ったじゃないか。

パンダラス さよう、ふるうまではな。だがパン種を入れてふくらませ

にやらんて。

トロイラス それだって待ったじゃないか。

パンダラス さよう、ふくれるまではな。だがまだまだパンにはならぬ。
こねたり、まるめたり、炉に火を入れたり、焼きあげたりとな。いや、
冷えるまで待たねばならぬ。あわてて食いつくと唇をやけどするから
な。

トロイラス 忍耐の女神がどんな神様か知らんが、

おれほどに辛棒づく苦しみをこらえはしないだろう。

プライアム王の食卓に坐つて、

ふと美しいクレシダの姿が心にうかぶと――

この浮気者、「クレシダの姿がふと心にうかぶ！――あの人がいっ
忘れられる？

パンダラス 昨夜はほんとにきれいでしたよ、あんなきれいだつたこと
はついぞございませんでしたな、ほかのどんな女だつてとてもかない
ませんや。

トロイラス そうじゃないんだ――ぼくはこの胸が

ため息のくさびを打ちこまれて、真二つに裂けそうになり、

兄のヘクターや父に気づかれぬように、

ため息をむりに微笑のしわにおしかくしたんだ、

嵐の日に急に太陽が微笑みかけるようにな。

だがうわべはどんなに嬉しそうに装おうと、悲しみは

しよせん悲しみさ、運命の手でたちまち苦しみに変えられる楽しみさ。

パンダラス 髪の毛さえヘレン様よりちよつとばかり濃くなかつたら――
いや、いや、いや、二人を較べてみても始まらぬ。しかしてまえて
しては、身内のことじゃ、世間でいう身内びいきは慎まねばならぬ。

(1) トロイのある小アジアの一方。

(2) トロイ西岸に近いエーゲ海の一小島。現在のボズジャード島。

(3) トロイ平原。

だが昨日のあの子のおしゃべりするところは誰かに聞かせたかったわい。あなたのお妹さんのカサンドラ様の御聡明なことをとやかく申す気は毛頭ございませんが、しかし——

トロイラス おい、パンダラス、パンダラスってば——

いいか、おれはな、おれの望みは今や息も絶え絶えだ、と言ってるんだ、

いや、お前にはわからん、どんなに望みははかなくなつたか。

いいか、このおれはクレシダに夢中だと言ってるんだ。それなのに

お前ときたら「あの子はきれいだ」などと空とぼけて、

おれの心臓の開いた傷口に、容赦なく

おれの目の、髪だの、頬だの、歩きぶりだの、声だの注ぎこむ。

そのうえべらべらとまくしたてる、あの人の手のことや——ああ、あの手、

あの手の色に較べれば、どんな白いものもまるで黒だ、

黒ずんでみにくい。あの手にそつと握られると、

白鳥の雛の綿毛の方が強い。敏感な触覚そのものが

節くれたった農夫の掌のようにかたい！ あの人が好きだと

おれが言えは、お前はそう言つてあの人の美しさを数えたてる。

確かにそれにはちがいないが、そんなことを言うのは、

恋のするどい剣先で切りつけられた傷口に、香油代りに

ナイフを突きさすことじゃないか。

パンダラス てまえは嘘は申しません。

トロイラス 真実だつて言わないじゃないか。

パンダラス いや、もうてまえは手をひきます。あの子のことはかまいません。あの子がきれいなら、あの子のためにはまことに結構。きれ

いでないなら、勝手に自分でなんでもしたらいい。

トロイラス パンダラス、どうしたのだ、おい、パンダラス！

パンダラス てまえは、まったくの骨折損のくたびれもうけ。あの子に

はよく思われず、あなたにもよく思われず。いくらせつせと足を運ん

でも、どっちからお礼一つ言われないうですからな。

トロイラス おや、怒つたのかい、パンダラス？ えっ、おれのこと

を？

パンダラス あの子はてまえの身内ですから、どうせヘレン様のように

おきれいじゃございますまい。身内でなきや、日曜日のヘレン様にだ

つて、普段の日でも負けやしないんだが。だが、どうだっていい。た

とえあいつが黒ん坊だつてかまいませんや。こちらの知つたことじゃ

ありませんや。

トロイラス きれいじゃないと、おれがいつ言つた？

パンダラス 言おうと言うまいとかまやしませんや。親父について行か

なかつたあいつが馬鹿つてもんでさ。さつさとギリシア方へ行つちま

えばいいんでさ。こんど会つたらそう言つてやろう。てまえは、今日

かぎり手をひきます。

トロイラス パンダラス——

パンダラス お断わりします。

トロイラス 頼むから、パンダラス——

パンダラス どうぞもうなにもおっしゃらないでくださいまし。この話

は一切もとのまま、なにもなかったことにいたします。

開戦のラッパの音。 【パンダラス退場】

トロイラス ええ、やかましい！ 騒々しいやつだ。野蛮な音をやめ

ろ！

どうもこいつも馬鹿ものだ！ ヘレンはきれいなはずだ、

こうして毎日せつせとあの女の顔に、お前たちの血を塗りたてるんだ

から。

こんな理由じゃ、戦うことはおれにはできん。

剣をふるうには、名分があまりに弱すぎる。

だがパンダラス——えい、畜生、なんてひどいやつだ！

クレシダに近づくには、どうしてもあいつの手をかりねばならん。ところがあの爺さんが扱いにくい、怒りっぽくて気むずかしい。どんな男の言葉もてんで受けつけないあの女同様だ。

ああ、アポロの神よ、ダフニへの愛のために、答えてくれ、クレシダは一体なものか、パンダーは、このおれたちは？

あの人のベッドはインドの国、その上に横たわるあの人は真珠、このイリアムの宮殿とあの人の住いとの間には

広大な大海原があるでしょう。

このおれは貿易商人、波間を進むパンダラスが心ばそいおれの唯一の頼み、案内人、船だ。

ラッパの音。イーニアース登場。

イーニアース どうしました、トロイラス様！ なぜ御出陣なさいませんか？

トロイラス 行かないから行かないのさ。こんな女子供の言いぐさが似合うのさ、

出陣しないなんて女々しいことだからな。

なにか今日あったのか、イーニアース君、戦場で？

イーニアース パリス様が引き揚げてまいりました、手傷を負って。

トロイラス 誰にやられたのだ？

イーニアース メネレーアースです。

トロイラス パリスのやつ、うんと血を流すがいい。そいつは茶番の負傷だ。

メネレーアースのひたいの角で突き刺されたんだから。

ラッパの音。

イーニアース あれ、あんなに。今日は大分面白そうですな、城の外では。

トロイラス 城の中の方がおれにはいい、出かけなくていいのなら。

だが行こう。行くのか、君も？

イーニアース 大急ぎでまいります。

トロイラス じゃ一緒に行こう。

〔退場〕

第二場 トロイ。街上。

クレシダとその下僕アレグザンダー登場。

クレシダ 今行つたのはどなた？

アレグザンダー お妃のヘキューバ様とヘレン様です。

クレシダ どこへいらつしやつたの？

アレグザンダー 東のやぐらへお登りです。

あそこなら谷間が見渡せますから、

戦況が一日でわかります。ヘクター様といえば、

いつも忍耐強いお方ですが、今日はめずらしく立腹なさって、

アンドロマキ様をお叱りになり、甲冑係りをお打ちになりました。

それから戦争でも早起きは三文の徳とばかりに、

日の出前にはやばや甲冑をつけて、

さつさと御出陣です。ヘクターの怒りの結果を

予言者のように見通してか、野の花はいつばい涙をうかべて

見送りました。

クレシダ なんてそんなにお怒りになったの？

アレグザンダー 噂によりますと、ギリシア方に

ヘクター様の甥にあたる、トロイ人の血をひく殿様がおります。

エイジャックス様と申します。

クレシダ そう、それで？

アレグザンダー 並ぶものない勇士という評判の方です、

古今独歩の士という方です。

クレシダ 人間ならだれでも独り歩きできるわ、酔っぱらうか、病気になるか、それとも脚をなくしてもしないかぎり。

アレグザンダー その方はいろいろの動物から一つ一つ特長をおとりになっています。勇敢なこと獅子のごとく、粗暴なこと熊のごとく、のろきこと象のごとくです。自然の神様もこの人の中にいろんな気質をごっちゃにつめてこまれて、勇気と阿呆とが抱き合い、阿呆と分別が同居しています。あらゆる人の欠点にもこと欠かない。わけもなく憂鬱に沈んだかと思えば、時ならずむやみにはしゃぎだす。あらゆる才能を寄せ集めて、これがみんなてんでんばらばら。まるで痛風やみの千手観音、いくら手があっても使えない。それとも盲の七つ目小僧かな、目ばかりあってもなにも見えない。

クレシダ そんな滑稽な人がどうしてヘクター様を怒らせたりしたの？
アレグザンダー 噂では、その人が昨日戦場でヘクター様に出会い、ヘクター様をお倒しになったといっています。その屈辱にヘクター様は食事もおとりにならず、夜一睡もなさらなかった。

クレシダ おや、誰か来てよ。

アレグザンダー 叔父様のパンダラス様です。

パンダラス 登場。

クレシダ ヘクター様は勇敢な方ねえ。
アレグザンダー そりやもう世界にならぶ者がございません。

パンダラス なんじやと、なんじやと？

クレシダ お早うございます、叔父様。
パンダラス や、お早う、クレシダ。なにを話しておるのじや？ お早う、アレグザンダー。機嫌はどうじや？ イリアムにはいつまいた？

クレシダ 今朝まいました。

パンダラス さっきなにを話しておったのか？ お前がイリアムに行つ

たときには、ヘクターさんはもう甲冑をつけて出陣したあたらう？
ヘレンさんはまだ起きだしてはいなかったかな？

クレシダ ヘクター様はお出かけでしたが、ヘレン様はまだおやすみでしたわ。

パンダラス そうだろう。ヘクターさんは早出じやな。

クレシダ いまそのことをお噂しておりましたのよ、それからあの方の御立腹のことも。

パンダラス 御立腹なすったのか？

クレシダ これがそう申しますわ。

パンダラス そのとおりじや。そのわけはわかっておる。今日はやるぞ、まちがいがない。それからトロイラスさんだって、どうして兄さんにおめおめおくれをとる人じやない。敵もあの人には用心するがよいわ、まちがいがないところじや。

クレシダ まあ、あの方も怒っていらつしやるの？

パンダラス だが、トロイラスさんがか？ トロイラスさんは兄さんより上じや。

クレシダ とんでもない、較べものにならないわ。

パンダラス なに、トロイラスさんが？ お前あの方に会えばわかるか？

クレシダ ええ、前にお会いしてお顔がわかっていればね。

パンダラス なんとと言っても、トロイラスさんはトロイラスさんじや。

クレシダ それはそうよ。確かにヘクター様じやありませんもの。

パンダラス そうじやとも、ヘクターさんはトロイラスさんとは大分ちがうて。

クレシダ 当りまえよ、それぞれ御自分つてものがありますもの。

パンダラス 御自分ねえ！ いや、お気の毒なこった、トロイラスさんがほんとに御自分だったらなあ！

クレシダ 御自分じやなくって？

パンダラス そうなってくれたら、わしはインドまで歩いてでも行くん

だがなあ。

クレシダ だってヘクター様じゃありませんわよ、あの方。

パンダラス 御自分か！ いや、いや、御自分じゃない。そうなってく

れたらなあ！ 神々は天にいなさる、時の成行きにまかすほかないわ

い。ああ、トロイラスさん、わしの氣持をあれの心に移せたら！ い

や、いや、ヘクターさんはトロイラスさんにまさはせん。

クレシダ 失礼ですが。

パンダラス それは年が上だ。

クレシダ もうたくさん。

パンダラス トロイラスさんはまだ若い。兄さんの年になってみる、び

っくりするぞ。ヘクターさんだって、あの人の知恵になかなか追いつ

けまい。

クレシダ あの方は生れつきの知恵でたくさんよ。

パンダラス いや才能だって。

クレシダ 結構よ。

パンダラス 顔立だって。

クレシダ 御立派だわ、弟さんのを借りなくても。

パンダラス お前には物を見る目がな。ヘレンさんだって、この間言

っておられた、トロイラスさんは顔は黒いが、——確かにそうだが、

いや黒くはないが——

クレシダ でもやっぱり黒いんでしよう。

パンダラス いや、ほんとのことを言えば、黒くて黒くない。

クレシダ ええ、ほんとのことを言えば、ほんとでほんとじゃない。

パンダラス ヘレンさんはあの人の顔の色つやをほめて、パリスさん以

上だと言った。

クレシダ そのパリス様だって結構いい色つやよ。

パンダラス そうじゃとも。

クレシダ するとトロイラス様はつやが良すぎることになりますわ。だ

ってパリス様以上だとおっしゃったんでしよう。パリス様だって色つ

やがいいのに、それ以上となるとそれこそびかびかだわ。いっそのこ
とヘレン様の金の舌でトロイラスさんの赤銅色の鼻でもほめあげたら
いいわ。

パンダラス 確かにヘレンさんは、パリスさん以上にトロイラスさんが

お好きらしい。

クレシダ じゃ、あの方浮気者よ。

パンダラス いや、いや、確かにそうじゃ。先頃ヘレンさんが、トロイ

ラスさんが立っているところへやって来た、あの丸い出窓のところだ

——そら、トロイラスさんには顎にひげが三、四本しか生えていない

だろう——

クレシダ 酒場の給仕にだってすぐに勘定できますわね。

パンダラス まだお若いからな。だが三ポンド以内の重量なら、兄さん

のヘクターさんに負けやしないさ、かるく手玉にとるさ。

クレシダ そんなにお若いくせに、そんなに女の人を手玉にとるのがお

上手？

パンダラス さっきのヘレンさんが好きだということの証拠だが、ヘ

レンさんはあの人のところへやって来て、まっ白い手でトロイラスさ

んの顎のさけ目へ——

クレシダ まあ、大変！ 顎がさけてるの？

パンダラス なあに、えくぼじゃよ。まったくあの人の笑顔はフリジア

中の誰よりもすばらしいからな。

クレシダ たいした笑顔ですわね。

パンダラス そうとも。

クレシダ まるで二百十日の空のよう。

パンダラス やめとけ。その、ヘレンさんがトロイラスさんを好きだと

いう証拠はだな——

クレシダ その証拠があがったら、トロイラス様は俄然大はりきりで

しょう。

パンダラス トロイラスさんが！ とんでもない、あの人はヘレンさん

なんぞ、はなもひっかけやせんよ。

クレシダ はなをひっかけなくても、手ぐらい握るでしょう。

パンダラス まったくおかしかったな、ヘレンさんがあの人の顎をくすぐったときは。いや、ヘレンさんの手はほんとに白い、これはいやでも認めんわけにはいかん。

クレシダ よろこんで認めなさいな。

パンダラス それから、トロイラスさんの顎に白毛が一本あると、ヘレンさんが言うのだ。

クレシダ まあ、貧相な顎ですこと。いぼにだってもっとたくさん生えるのに。

パンダラス それでみんな大笑いだ。お妃様もあまりおかしくって、目からポロポロ。

クレシダ 石の雨――

パンダラス カサンドラさんもお笑いになる。

クレシダ あの方は落ちついていらつしやるから、涙はお流しにならないでしよう？

パンダラス ヘクターさんまで大笑いよ。

クレシダ 一体なんでそんなにお笑いになったの？

パンダラス ヘレンさんがトロイラスさんの顎に白毛を一本見つけたからさ。

クレシダ 青いひげでも見つけたのなら、わたしだって笑うんだけど。

パンダラス いや、ひげのことより、そのときのトロイラスさんの冗談がおかしかったのじゃよ。

クレシダ なんておっしゃったの？

パンダラス 「あら、あなたのあごひげたった五十二本^②、そのうちの一本は白毛よ」って。

クレシダ そうヘレン様がおっしゃったのね。

パンダラス そうじゃ。するとトロイラスさんが「五十二本、そのうちの一本が白毛。白毛は親父でほかは息子たちです」と言うんだ。する

とヘレンさんが「まあ、ではどれが夫のバリスですの？」「角のあるやつです、抜いておあげなさい」そこでみんなどときたのじゃ。ヘレンさんはまったく赤になる、バリスさんはむくれる、一座の者は大笑い。いやはや、大変なさわざじやったよ。

クレシダ もうたくさん。叔父様こそさつきから大騒ぎじゃありませんか。

パンダラス それはそうと、なあクレシダ、昨日話したことをよく考えてみてくれ。

クレシダ 考えてますわ。

パンダラス あれは本気じゃ、嘘じゃない。あの人は涙を流すぞ、つゆ空のように。

クレシダ その涙からわたしがとび出すのね、いらくさのように。

退却のラッパの音。

パンダラス おい、戦場から引き揚げてくるぞ。ここに立っていて王宮の方へ行くのを見よう。そうしよう。なあ、クレシダ、そうせんか。

クレシダ いいわ。

パンダラス ここ、ここ。ここが一番いい。みんながよく見える。通って行くとき、一人一人名前を教えてやろう。トロイラスさんは特別によく見るんだぞ。

クレシダ そんな大きな声を。

イーニーアスが通りすぎる。

イーニーアスが通りすぎる。

パンダラス あれがイーニーアスだ。立派な人だろう？ トロイの華だ、まったく。だがトロイラスさんに気をつけろよ、もうすぐ来るだろう。

アンティーナーが通りすぎる。

アンティーナーが通りすぎる。

クレシダ あれはどなた？

パンダラス あれはアンティーナーだ。頭のきれる男だ。しかし悪い人

じゃない。分別にかけてはトロイ中で並ぶ者はあるまい。風采もなかなかいい。トロイラスさんはまだかな？ もうすぐ見せてやるぞ。わしを見つけたらきつと手をあげなさるから。

クレシダ お手をおあげになるの？

パンダラス 見ていなさい。

クレシダ 叔父様には誰だつてお手あげよ。

ヘクターが通りすぎる。

パンダラス あ、ヘクターさんだ、そう、あれだ、あれだ。堂々としているな！ ようよう、ヘクターさん！ どうじや、立派なものだろう。すごいぞ、ヘクターさん、万歳！ どうじや、あの顔つき！ あれがほんとの顔じゃ。え、すごいだろう？

クレシダ ほんとにすばらしい方だわ。

パンダラス そうだろう？ 見ていて気持ちがよくなる。見ろ、あんなに甲がきずだらけだ。そう、あれだ、あのとおりだ。冗談じゃない、大した働きぶりだ。それにまちがいはない。きずだらけだ。

クレシダ みんな刀のきずなの？

パンダラス 刀？ 刀だろうと、なんだろうと、あの方はかまやしない。たとえ悪魔が立ちむかつてこようと、平気なものさ。まったく見ていて気持ちがよいわ。あ、あそこにパリスさんが来たぞ、パリスさんが。

パリスが通りすぎる。

おい、あれを見ろ。勇ましい人だろう。立派なものじゃ。今日手傷を負つて引揚げたなど言つたのは、誰じゃ？ 手傷など負うておらんさぞヘレンさんも大喜びだろう、なあ。早くトロイラスさんが来んなあ。もうじきお見えになるぞ。

ヘリナスが通りすぎる。

クレシダ あれはどなた？

パンダラス あれはヘリナスさんだ。——一体トロイラスさんはどうしたのだろう？——あれはヘリナスさんだ。——今日は出陣なさらなかったのかな。——あれはヘリナスさんだ。

クレシダ ヘリナスさんも戦争なさるの？

パンダラス ヘリナスさんか？ いや。——うん、相当にやるよ。一体

トロイラスさんはどうなすつたのかな。あれ、みんながトロイラスさんつてはやしていないか？ ヘリナスさんは神官じゃ。

クレシダ あそこにこそ来るのはどなた？

トロイラスが通りすぎる。

パンダラス どこに？ あつち？ あれはデーフォーパスさんだ。——

——あ、トロイラスさんだ。あの方じゃよ。えへん！ よう、よう、トロイラスさん！ 騎士道の華！

クレシダ しつ！ およしなさい、みつともないから。

パンダラス 見ろ、見ろ、よく見ろ。おお、御立派なトロイラスさん！ よく見てごらん。あれ、剣にあんなに血がついている、甲はヘクターさんのよりきずだらけだ。どうだあの顔は、あの歩きぶりは！ ああ、なんですばらしい青年だ！ まだ二十三にならんのに。おみごと、おみごと、トロイラスさん！ わしに美の女神の妹か、天女の娘がいたら、あなたなら、どつちでもお望みしだ。すばらしい人だ！ パリスさんだつて？ パリスさんなんぞ、あの人から見れば、まるでごみだ。きつとヘレンさんだつて喜んでとりかえるぞ、片方の目ぐらいおまけにつけるだろうて。

(1) 青二才にひつかけた皮肉。

(2) プライアムには五十人の息子があつたという。五十二本のひげのうち白毛の一本はプライアム。「角のあるやつ」はパリス。

(3) 「角のあるやつ」は頭に角を生やした亭主、つまり妻に裏切られた間拔け亭主の意。

クレシダ また大ぜい来ましたよ。

兵士たちが通りすぎる。

パンダラス 驢馬に阿呆にうすのろどもだ！ 有象無象だ、かすや糲^もがらだ！ 食後の雑炊だ！ トロイラスさんが一目見られたら、わしは死んでも本望じゃ。見るな、見るな、あんな連中など。鷹はもう飛び去った。あとはみなうすぎたない鳥だけだ。わしはトロイラスさんみたいな人になりたい、アガムノンやギリシア人全部よりも。

クレシダ ギリシア人のなかにはアキリーズがいるわ。トロイラスさんよりえらい人よ。

パンダラス アキリーズが？ あいつはただの馬車ひきだ、人足だ、駱駝^もみたいなやつだ。

クレシダ おや、おや。

パンダラス 「おや、おや」だ！ 一体お前さんには判断力がおありかな？ 物を見る目があるのかな？ 男というものがどんなものか、お前さんにはわかっておるのかい？ 生まれ、容貌、容姿、弁舌、勇気、学問、品位、徳性、若さに気前のよさ、こういうものが、男たるものの風味をつける塩、胡椒ではないか。

クレシダ たつぷり塩胡椒して、それから天火で焼きあげるのね、肝腎の中身はぬぎで。中からはらっぱなんでもの。

パンダラス 口のわるいやつじゃ！ わしにはさっぱり見当がつかん、お前の身のかまえが。

クレシダ 背を向けてますの、お腹を守るために。知恵をつかいますの、だまされないうために。秘密を守って悪い評判を防ぎますの。仮面をかぶって顔を守りますの。それからあなたを楯^{たて}にして、そうした一切から身を守りますの。これがわたしの身のかまえ、こうして嚴重に見張りしてますの。

パンダラス 夜も寝ずにか？ 誰を見張るのじゃ？

クレシダ あなたを見張るのよ。それが一番肝腎のことよ。たとえば

まど一本とられたとしても、それを吹聴させないようにあなたを見張るのよ。もつとも、人目につくほどふくれ上ったら、そのときはもういくら見張ったところでむだですけど。

パンダラス あきれたやつじゃ。

トロイラスの小姓登場。

小姓 殿様がすぐにお目にかかりたい、とおっしゃっております。

パンダラス どこにおられる？

小姓 あなたのお宅に。あそこで鎧をぬいでおられます。

パンダラス すぐうかがうと言ってくれ。

〔小姓退場〕

ことによると負傷なすったのかな。姪や、さよなら。

クレシダ さようなら、叔父さん。

パンダラス またすぐ行くぞ。

クレシダ 口説きに？

パンダラス トロイラスさんの好意のしるしを持ってな。

〔パンダラス退場〕

言葉、誓い、贈物、涙、恋の神様への捧げ物一切を

叔父さんは他人のためにお供えになる。

でも叔父さんが上手にはめそやす以上に、

わたしは当のトロイラス様のお姿になん千倍もひかれる。

でも知らぬふりをしよう。女は口説かれているうちが天使。

うんと言ったらそれでおしまい。うれしいのはうんと言うまで。

男の人に愛されて、このことを知らない人は馬鹿よ。

手に入らぬものを値うち以上にありがたがるのが男心。

恋を知る女なら、男の人が切ない思いに目の色かえて

追いまわすまでは、なびかない。

だから恋から教わった格言は